

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和8年度学校評価 計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	富士中学校
-----	-------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 授業に関しては、個に応じた指導を積極的に取り入れることができた。今後、さらに、生徒の主体的な学びを促す授業づくりを通して学力向上を図る。 生徒に出番と役割を与え、その動きに対して承認することを通して、生徒の自己肯定感を高めるようにした。さらに自分で考え行動する、自律した生徒の育成をめざす。 学校運営協議会の助言を得ながら、富士町の教育資源や地域人材を活用し、地域と連携した学校づくりをめざす。 地域を担うたくましい人材を育成するために体力の増進と健康の増進を図る。
------------------	--

2 学校教育目標	地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成
----------	------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の自己実現を目指したSL学習(教科横断的な生き方探究学習)の推進 SL・・・Search for Life ○平日部活動と専門部活動を発足させ、生徒が主体的に活動する部活動の推進 ○生徒を中心に据えた心の絆&居場所づくり ○小中一貫校、コミュニティ・スクールとしての絆づくり
------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	
---------------	------	--------	--

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○「分かる授業」や「主体的な学び」を目指した、指導方法・評価方法の工夫改善の推進	○「先生は、私たちが分かりやすい授業を目指して工夫している」と思う生徒90%以上 ○「学校は、生徒が分かりやすい授業をめざし、学習内容や指導方法を工夫している」と思う保護者72%以上	・少人数の特徴を生かして、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・表現する力や調整する力を育成するために、各教科でアウトプットする機会を設けたり、振り返りを工夫したりする。 ・1か月ごとに各教科から学習としてチャレンジする内容を出題し、生徒が主体的に調整しながら学習を進める。 ・表現力の向上を図るために、「1分間スピーチ」を実施し、他の生徒の前で自分の考えや思いを述べる機会を多く設ける。							研究主任 学力向上コーディネーター
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学校生活は安心して楽しく過ごせている」と思う生徒95%以上 ○生徒会活動の活性化によるボランティア活動等の参加90%以上	・OUを活用した受容的な学級集団をつくる。 ・職員全員で取り組む道徳の授業を推進する。 ・生徒が自ら企画・運営する生徒集会や、積極的に参加する地域のボランティア活動を通して、主体的な生徒会活動を促進する。							教育相談担当 道徳主任 生徒会担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「私はいじめゼロをめざした取組を行っている」と思う生徒100% ○「学校は、いじめをなくし命を大切にすることを怠らない」と思う保護者90%以上 ○「いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けた取組を行っている」と思う教員100%	・毎月「いじめ・いのちを考える日」の取組と「生活アンケート」の実施を行う。 ・各種調査等によるきめ細かな生徒の実態把握を行う。 ・教師間の連絡・報告・相談を徹底する。 ・学年⇄生徒指導部の連携した組織的対応と、迅速な対応による事案の解決を行う。							生徒指導主事
	●◎生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒90%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒65%以上 ○自分の子どもは、将来の夢や目標を持っていると思う保護者60%以上	○◎「富士町が好き」、「富士町を自慢できる」の生徒回答率95%	・学校行事や生徒会活動などを中心に、生徒が主体的に活動する場面を設け、全職員による開発的生徒指導を実践する(生徒の出番と承認の場面の設定など)。 ・承認ボードを設置し、学校行事等での生徒の動きを掲示することで、その動きを承認する。 ・身近な大人(先生、保護者、地域の人)が、夢や目標を子どもたちに語る場を設ける。 ・生徒が目標達成や生き方探究に向かうことができるよう、学習や生活のプランニングおよび振り返りをして、自分の学びや学び方を調整するステップダイアリーを導入する。						
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ④「健康を考えると行動できる能力の育成」	●「規則正しい生活を送っている」と思う生徒85%以上 ●「健康に良い食事をしている」と思う生徒90%以上 ●「健康は何より大切だ」「保健で学習したことを、自分の生活に活かしている」と答えた生徒75%以上	・「早寝、早起き、朝ごはん運動」を家庭・地域と共に推進し、高い朝食喫食率を維持させる。 ・健康維持管理能力の向上を目指した健康指導、食育指導を行う。 ・保健だより、給食だよりの定期発行による意識の啓発を行う。 ・「いじめ・いのちを考える日」や、保健の授業などで、健康に生きる大切さについて考えたり、他者と意見交換する場を設ける。 ・生徒に1日の生活のプランニングおよび振り返りをさせることで、自分に合う生活リズムを見つけさせる。							保健体育科 保健・食育・給食
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在職等時間削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定と実施を徹底する。 ・職員会議等の協議内容を精選し、ペーパーレスにしたり、終了時間を設定したりする。 ・業務状況を鑑み、日によっては部活動の指導を交代で行うなど、協力して部活動の運営に取り組む。							教頭
	○時間を意識した仕事の効率化	○「サーバー内のデータを分かりやすく整理保存した」と思う職員90%以上	・各担当は、年度末までに、不要データを削除したり、ファイル名を整理したりすることで、担当フォルダ内のデータを整理する。							教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の意識の向上	○「支援や配慮が必要な生徒への関わり方や対応力が向上した」と思う職員90%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催、特別支援教育委員会での情報共有を行う。							特別支援Co

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○小中連携	○9年間の学びをつなぐ小中一貫教育の研究推進	○小中学部の交流活動、研究授業(年2回)等を実施する。	・小中合同協議会の内容を充実させ、乗り入れ授業、交流活動、研究授業を計画的に実施する。 ・中学部職員の小学部への乗り入れ授業を実施する。 ・小学部5・6年を中学部に招き、平和学習や外国語・英語交流などを行う。 ・体育大会を小学部と合同で実施する。 ・小学部の研究授業を参観したり、小学部の教諭を招いて中学部で研究授業を行ったりする。							教務主任
○コミュニティスクール	○学校運営協議会の充実	○「学校は、地域や保護者と連携して教育活動を推進している」と思う保護者90%以上 ○「学校の情報がよく伝わってくる」と思う保護者85%以上	・学校運営協議会における熟議を核として、連携を強化する。 ・学校便り、HP、学校情報メールを活用し、保護者、地域への積極的な情報発信を行う。							教頭

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--